事例
08-4

観光利用（沖縄県、京都市）

◆沖縄

沖縄

沖縄県は現在観光地として注目を集め、国内・海外問わず非常に多くの観光客が訪れています。訪問者数の増加に伴い移動需要が高まる一方、公共交通がインフラとして充足していない環境であり、タクシーやレンタカーの供給も不足しているため、観光客が移動手段を確保できない状況が生じています。さらに、沖縄県民のマイカー移動による交通渋滞も頻発しており、県民の移動だけでなく、レンタカーを借りた観光客にとっても快適な移動が妨げられていることが交通課題の一つになっています。そういった交通課題の解決に貢献するため、バイクシェアサービスはホテルや観光スポットを中心に展開することで、沖縄を楽しんでいただきつつきめ細やかな運営を実現しています。サイクルポート設置を推進するとともに、快適なシェアサイクル利用環境の維持向上を図るための改善策を検討しています。

◆京都

京都

京都は国内外問わず観光に特化した街の特徴を持ち、年間来訪者は5000万人を超えています。一方で、人口減少による財政面の課題、オーバーツーリズム、駐輪場不足や学生が卒業する際の自転車の廃棄問題への対応といった環境面の課題も抱えています。これらの地域特性や地域課題に対し、シェアサイクルの浸透・拡大により、地域の移動手段の選択肢を増やすこと、生活圏の交わりを増やすことによって「住みたくなるまち」に変化するとともに、持続可能な社会の構築に寄与すると考えました。京都では地元企業のClew社がドコモ・バイクシェアのシステムを利用する形でサービス展開をしています。このため、東京や大阪など他のエリアから訪問した方も、バイクシェア会員であればそのまま利用することができます。